

自 平成29年4月01日

至 平成30年3月31日

[総括事項]

当協会は平成26年3月19日付けで内閣府より公益社団法人としての認定を受け、4月1日を以って「公益社団法人 日本タートル協会」として移行登記がなされてから丸4年が経過致しました。

以来、認定書のなかに規定されております事業目的「中高齢者・障がい者の健康の保持、増進を図るとともに、生き甲斐を高めるためのスポーツの普及促進に寄与することを目的とした事業」に沿い平成29年度はタートルマラソン国際大会兼バリアフリー大会の開催、タートル講習会の開催、定例月次練習会、健康イベント等を実施致しました。

1. 第46回タートルマラソン国際大会兼第20回バリアフリー大会の開催

- ・実施日：平成29年10月15日（日） 雨天決行
- ・場所：荒川河川敷コース（東京都足立区）
- ・参加申込人員：11,506名（前年 12,011名）
- ・当日参加人員：7,720名（ 〃 10,000名） 67.0%

＊上記参加人員の内障がい者ランナー：544名（前回438名、前々回419名）

1971年（昭和46年）に日本最初の市民マラソン大会である「第1回タートルマラソン全国大会」の開催以来、今回で46回目となりましたが雨天対策に課題が残された事を除き事故もなく予定通りに終了する事ができました。

高齢社会が急速に進行している我が国において、高齢者の健康の維持・増進は、社会的コストの削減のみならず積極的な社会参加の基盤となります。

当協会は設立以来この認識の下、高齢者の生きがいきづくりと高齢者スポーツの振興を旨として本大会を開催してまいりました。

本大会の特徴は、第一に近年増加傾向の競技志向ではなく健康マラソン大会として誰もが自由に参加できる環境があることです。そして第二に正確な計測記録を実施することによって日頃の健康づくりの成果を自ら確認でき、また一部の競技志向のランナーにも満足なデータを提供できることです。

実際に他の各大会と比較して高齢者、超高齢者（75歳～）そして障がい者の参加者数は国内最大級で、これは本大会が公益目的に沿った大会となっていることの現れと言えます。またバリアフリー大会に相応しく障がい者（視覚障がい、知的障がい、内臓疾患など）も小雨降る悪条件の中、健常者と同じ時間に同じコースを歩き走り皆さん元気にゴールされていました。

□当日の種目別出走者人数

種目名	出走者人数 (前回)
ハーフ男子	4,092名 (5,170)
ハーフ女子	1,023名 (1,409)
10K男子	1,241名 (1,570)
10K女子	624名 (838)
5K男子	249名 (317)
5K女子	246名 (327)
ウォーキング10K男女	113名 (163)
ウォーキング5K男女	132名 (206)
1マイル親子	非計測
合計	7,720名 (10,000)

□申込人数～完走率

種目	申込人数	出走人数	完走人数	完走率(%)
ハーフ男子	5,767	4,092	4,072	99.5%
ハーフ女子	1,482	1,023	1,015	99.2%
10km男子	1,881	1,241	1,232	99.3%
10km女子	995	624	622	99.7%
5km男子	401	249	249	100%
5km女子	391	246	245	99.6%
ウォーキング10km男女	179	113	110	97.3%
ウォーキング5km男女	256	132	132	100.0%
1マイル親子	154 (309)	—	—	—
合計	11,506	7,720	7,677	99.4%
				前回 99.4%

□障がい者完走率

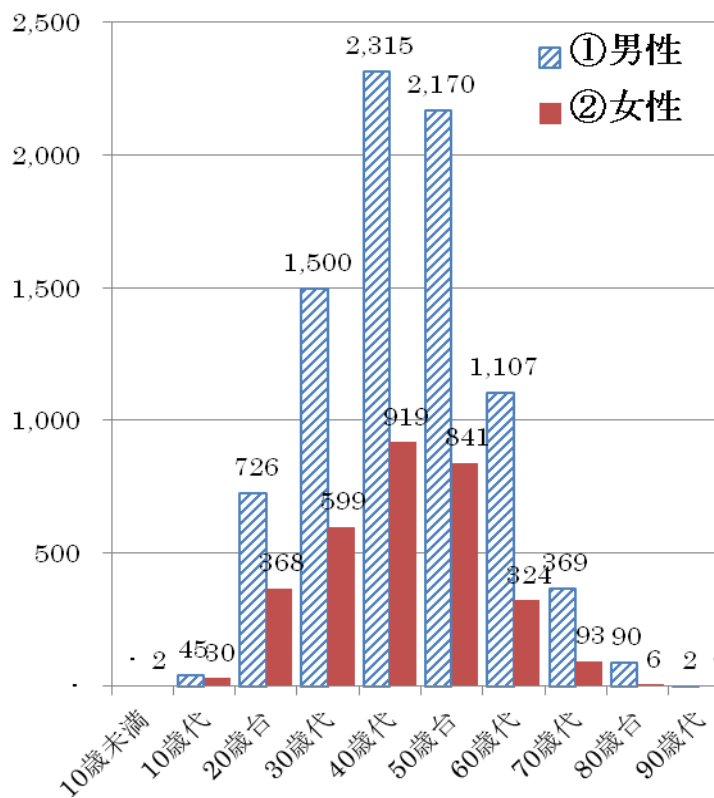
種目名	出走人数	完走人数	完走率
ハーフ男子	87	86	98.9%
ハーフ女子	18	17	94.4%
10km男子	45	45	100%
10km女子	23	23	100%
5km男子	32	32	100%
5km女子	16	16	100%
ウォーキング10km男女	12	12	100%
ウォーキング5km男女	43	43	100%
合計	276	274	99.3%

□ 申込人員の年代別分布(高齢者の割合)

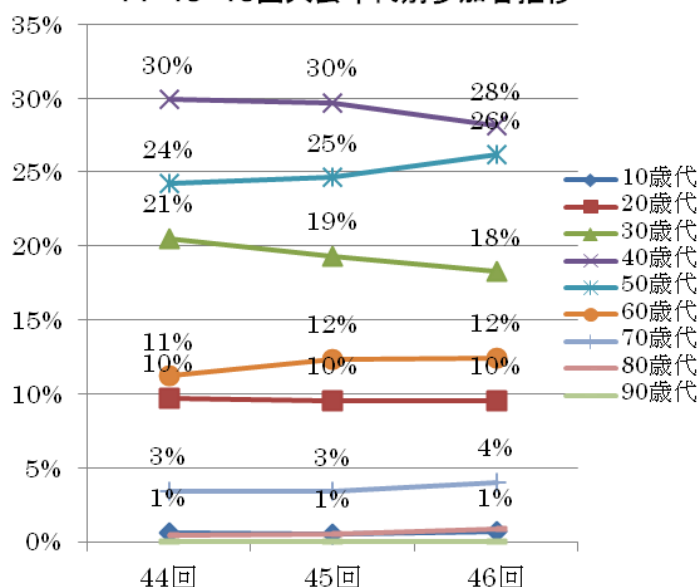
年代/性	①男性	②女性	③合計	④割合 ③/総数	45回大会 比較	44回大会 比較
10歳未満	-	2	2	0.02%	0.01%	0.00%
10歳代	45	30	75	0.65%	0.55%	0.58%
20歳台	726	368	1,094	9.51%	9.52%	9.70%
30歳代	1,500	599	2,099	18.24%	19.32%	20.50%
40歳代	2,315	919	3,234	28.11%	29.71%	29.90%
50歳台	2,170	841	3,011	26.17%	24.62%	24.20%
60歳代	1,107	324	1,431	12.44%	12.34%	11.20%
70歳代	369	93	462	4.02%	3.37%	3.40%
80歳台	90	6	96	0.83%	0.53%	0.45%
90歳代	2	-	2	0.02%	0.02%	0.03%
総数	8,324	3,182	11,506	100%	100%	100%

年代/性	①男性	②女性	③合計	④割合 ③/総数	45回大会 比較	44回大会 比較
65歳未満	7342	2929	10271	89.3%	89.90%	91.20%
65歳以上	982	253	1235	10.7%	10.10%	8.70%
75歳以上	225	39	264	2.3%	0.20%	1.60%

46回大会申込年代別分布



44・45・46回大会年代別参加者推移



46回大会都道府県別申込者数

都道府県	人数	順位	都道府県	人数	順位
北海道	14人	13位	滋賀県	1人	32位
青森県	12人	14位	京都府	7人	18位
岩手県	2人	27位	大阪府	22人	10位
宮城県	11人	17位	兵庫県	12人	14位
秋田県	2人	27位	奈良県	人	39位
山形県	人	39位	和歌山県	3人	23位
福島県	2人	27位	鳥取県	人	39位
茨城県	256人	5位	島根県	人	39位
栃木県	42人	8位	岡山県	1人	32位
群馬県	39人	9位	広島県	6人	19位
埼玉県	1678人	2位	山口県	1人	32位
千葉県	1325人	4位	徳島県	人	39位
東京都	6302人	1位	香川県	3人	23位
神奈川県	1564人	3位	愛媛県	1人	32位
新潟県	5人	21位	高知県	2人	27位
富山県	1人	32位	福岡県	12人	14位
石川県	1人	32位	佐賀県	人	39位
福井県	人	39位	長崎県	人	39位
山梨県	19人	11位	熊本県	人	39位
長野県	5人	21位	大分県	人	39位
岐阜県	6人	19位	宮崎県	1人	32位
静岡県	53人	7位	鹿児島県	3人	23位
愛知県	70人	6位	沖縄県	2人	27位
三重県	3人	23位	海外	17人	12位

11,506

関東地域	11,206	97.4%
-------------	--------	-------

種目別最高齢者 *印は前回参加者

◆最高齢者 吉野 照儀 94 歳

	氏名	年齢	都道府県	参加回数
ハーフ男子	*奥山 新太郎	89	神奈川県	2
ハーフ女子	松本 真砂美	77	神奈川県	1
	*宮崎 ヒロ子	77	千葉県	3
10km 男子	*吉野 照儀	94	東京都	7
10km 女子	小野 美津子	80	神奈川県	6
5km 男子	*南雲 徳衛	93	群馬県	5
5km 女子	吉村 正子	83	東京都	1
W10km 男女	池田 四郎	83	埼玉県	3
W5km 男女	*土屋 之正	86	東京都	4
1M 親子	引間 勝俊	69	埼玉県	10

2. タートル講習会の開催

代々木会場（オリンピックセンター）で今年度は隔月の実施で行いました。
尚、昨年度実施の足立会場は内容を練習会に変えて実施しました。

	午前の部 (オリンピックセンター) 9時30分～12時	午後の部 (代々木公園にて) 1時～2時30分
平成29年5月6日(土)	①体力体組成測定・ランニング教室	ランニング練習会
平成29年7月22日(土)	②心肺機能と持久力・ランニング教室	同上
平成29年9月16日(土)	③マラソン大会に向けて・ランニング教室	同上
平成29年11月25日(土)	④運動と疲労解消・ランニング教室	同上
平成30年1月20日(土)	⑤肥満と生活習慣病・ランニング教室	同上
平成30年3月17日(土)	⑥ランナー向けボテイクア・ランニング教室	同上

平成29年度の講習会の内容は午前の部が室内で講義とランニングの基礎体力を養う各種基礎運動を行い、午後の部は屋外（代々木公園陸上競技場：通称織田フィールド、または代々木公園内）でランニング教室を開催しました。参加者の人数は平均で午前の部が約25名、午後の部が約20名となっております。

- 講習内容
- ・「体力・体組成測定の意義」
 - ・「運動適応」「心肺機能と持久力」「インターバルトレーニング理論」
 - ・「伴走入門」「マラソン大会に向けて」
 - ・「日常の疲労回復術」「練習・レースにおける疲労対策」

- ・「歴史に見る生きる力」「肥満と生活習慣病」
「インターバルトレーニング実技」
- ・「歩きと健康」「ランナー向けボディケア・理論と実技」

3. 月次ランニング練習会の開催

今年度は代々木会場に加えて、足立会場の2ヶ所で実施しました。

【代々木会場】 全11回

毎月第1日曜日に改装が終えた代々木公園陸上競技場（通称織田フィールド）と代々木公園にて練習会を開催しました。ここでは初心者向けジョギング及びランニング、そしてウォーキングの指導と体力向上の実践普及を図りました。参加者は毎月1回につき25名前後で指導上余裕があるので新年度においてはネット等を通じてさらに参加者を募っていく予定です。

・実施日：5/7 6/4 7/2 8/6 9/3 10/1 11/5 12/17 1/7 2/4 3/4

【足立会場】 全8回

帝京科学大学千住キャンパス（足立区千住桜木）との提携協力体制も2年目となりましたが、引き続き大学構内の教室・グラウンドを使用（使用料免除）して毎月第3木曜日に一般人を対象としたランニング練習会を開催しました。

前年同様、勤労者の便を考慮して夜間（19：00～20：30）に行い平均10名の参加者でしたが積極的な告知の甲斐もあって後半には参加者が増加しました。

・実施日：8/24 9/21 10/26 11/16 12/14 1/18 2/15 3/15

4.健康イベント開催

今年度は、不定期な健康イベントとして下記を実施しました。

4月「タートルラン&ウォーク in 多摩湖」

7月「御岳山～ロックガーデンハイク」

11月「筑波山ハイキング」

1月「延壽寺健脚祈願」

5.今後の課題

①採算事業導入への取り組み

現今事業収入の99%がタートルマラソン大会となっておりますが、その大会収入は毎年4～7月の4ヶ月のみの発生です。その他の月における講習会等での収入は僅少で無に等しく公益社団法人としての運営管理上適切とは言えない状況にあります。

従って、今後の一番の課題は講習会等の採算化を図ることに加えて毎月毎の定収入につながる事業の実現にあり、その為には「事業開発・人・資金」

についての事業計画が急がれることは言うまでもなく新年度において積極的な検討が望まれます。

②寄付金の獲得に向けて

企業・個人を問わず公益社団法人への寄付は税額控除（公益社団法人等寄附金特別控除）の対象となっており、この恩典を踏まえた寄付金募集が必要と考えられますが、その為には寄付をしたくなる魅力（見返り）を持たなければなりません。それが何か、どうして実現していくかの議論が必要となると思われます。

③会員数対策

ここ数年来、年間での増加数と減少数がほぼ等しく会員数は横ばいとなっております。これは新規の会員増加と高齢や死亡による退会の数がほぼ同数であるからですが、今後は更に退会者の増加が予想されますので新規会員獲得の方法の検討が急がれます。

④タートル協会のPR強化

日本タートル協会の目的は中高齢者の生き甲斐作りと生涯スポーツとしてのランニング・ウォーキングの実践者を増やし国民の健康寿命を延伸することにあります。その為にはタートル協会自体の知名度が高まり広く世の中に周知されて人々の意識の中に定着することが基盤になると考えられます。

具体的な手段の一つとしてマスコミの利用が有効と思われますが、そのきっかけ（仕掛け）についての研究と模索が必要となります。

⑤大会等のPR手段の拡大

年々、高齢者においてもパソコンやスマートフォン等によるインターネットの利用度が高まりつつあります。

この環境を活用した現事業（大会、講習会等）のPRと双方向通信は既に開設済のネット会員「タートルズ」やイベント告知兼応募システム「モシコム」によって実施しております。

⑥マラソン大会申込・支払い方法の拡大に向けて

これまでの申込方法は大きく分けて、A インターネット B 郵便振替 C 事務所直接の3通りでしたが、次回（第47回大会）から新たにコンビニエンスストアでの申込&支払（ローソン、ミニストップの機器 Loppi 利用）が可能となる予定です。これは24時間対応であり、ネットを使用しない人や日中の郵便局利用が困難な人にも対応できることとなります。

以上